

釧路水試だより

72



ナガメヌケ: *Sebastes ciliatus* (Tilesius)
雄 標準体長 33.4cm

- 昨年の道東太平洋・根室海峡スルメイカ漁
—— 特に羅臼沿岸で好漁 ——
- 雑海藻駆除によるコンブ漁場の再生技術
- シロサケ頭部の原料特性について

平成7年5月

北海道立釧路水産試験場

昨年の道東太平洋・根室海峡スルメイカ漁

— 特に羅臼沿岸で好漁 —

高 昭 宏

一九九四年の道東太平洋、根室海峡におけるスルメイカ漁は前年に比べ好調で、特に根室海峡の羅臼沿岸で豊漁だった。

一、道東太平洋（広尾～根室）

釣り漁業は広尾・釧路沿岸で七月下旬に始まり、十月中旬に終漁となった。主な漁場は広尾沿岸、大津・釧路沿岸で、八月上旬～中旬には落石沿岸でも漁場が形成された。年漁獲量（釣り）は五千七百九十三トンで、前年（二千三百六十一トン）の二・五倍であった。

資源増え気味

広尾～根室のスルメイカ水揚げ量（釣り、生鮮）の経年変化を図1に示す。一九九四年の水揚げ量は、一九八一年以降では三番目に多い。

釣り漁船による一隻一晚当たりの漁獲量を釧路港の例で見ると七月一・四トン、八月一・三トン、九月一・二トン、十月一・二・一トンで九月以降に来遊密度が高くなった。漁期全体で見るとその値は二・〇トンで

ほぼ前年並みであった。

前年の二・七倍（合計）

道東太平洋では、釣りのほかに底引きでも千二十九トン（前年の六・二倍）漁獲された。釣り、底引きによる合計は六千八百二十二トンで、前年（二千五百二十八トン）の二・七倍であった。

二、根室海峡（羅臼沿岸）

九二年に次ぐ豊漁

根室海峡の羅臼沿岸では、一九九四年に一万二千五百九十三トンのスルメイカが漁獲された。一九八一年以降では一九九二年に次いで多かった。（図2）

スルメイカは釣り、サケ定置網、雑刺し網で漁獲され、一九九四年における漁獲比率はサケ定置網一五〇・六％、釣り一三九・七％、雑刺し網一・七％である。これを月別に示すと図3のとおりである。

十二月上旬まで漁獲（釣り）

定置網には七月から乗網し始め、十一月下



図1 道東主要港スルメイカ水揚げ量
(広尾～根室、釣り・生鮮)

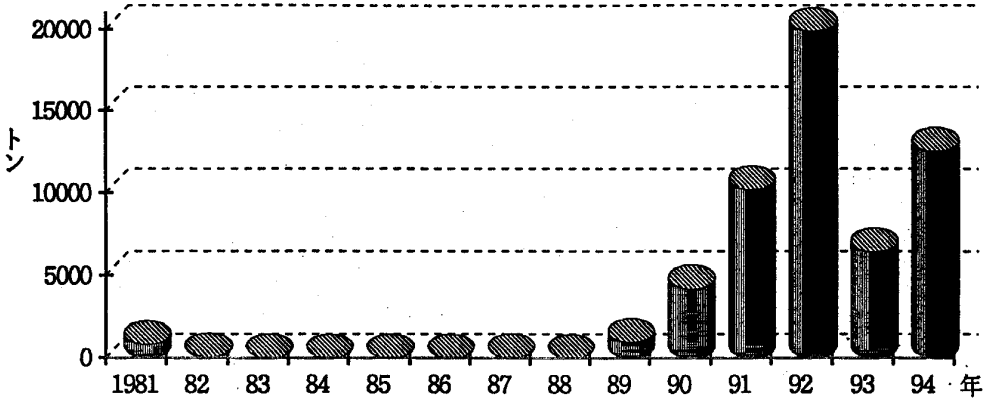


図2 スルメイカ経年漁獲量(羅臼)
(釣り、定置、刺網)

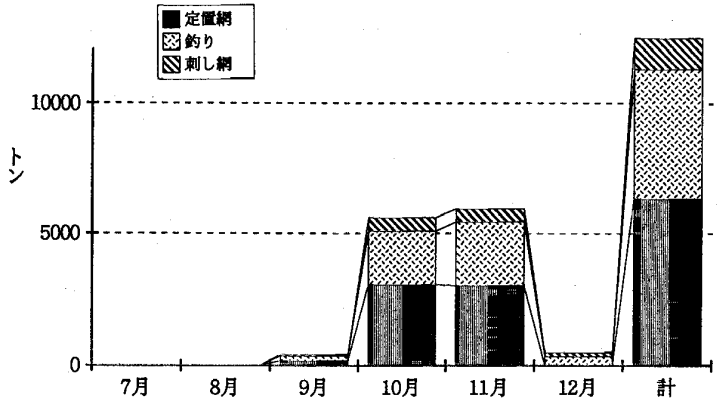


図3 スルメイカ月別・漁具別漁獲量
(1994年、羅臼)

旬まで水揚げが続いた。特にまとまって漁獲されたのは十月中旬～下旬、十一月中旬～下旬である。(図4)

釣り漁業が活発化したのは十月からで、十一月上旬まで好漁が続いた。例年は十一月末に終漁するが、一九九四年には十二月十日過ぎまで漁が続いた。(図5)

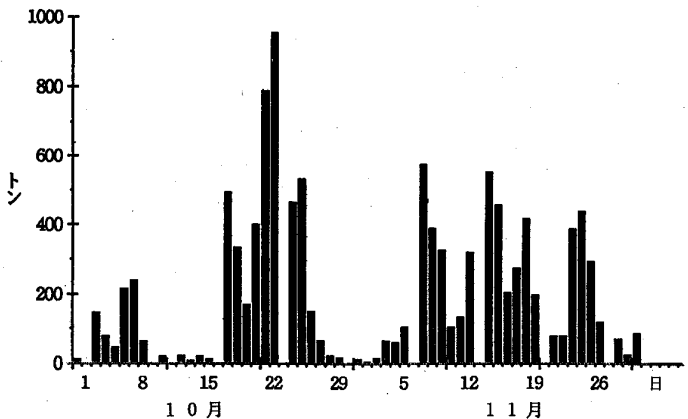


図4 スルメイカ漁獲量変動
(1994年、羅臼、定置網)

予想どおりの漁獲量

なお羅臼沿岸の一九九四年のスルメイカ漁況予想は「一九九三年を上回ることは確実で、一万トンをやや超えるだろう」(羅臼町内の講演会で釧路水試発表)というものであった。結果は一万二千五百トンであった。(図2参照)

(たかあきひろ・資源管理部)

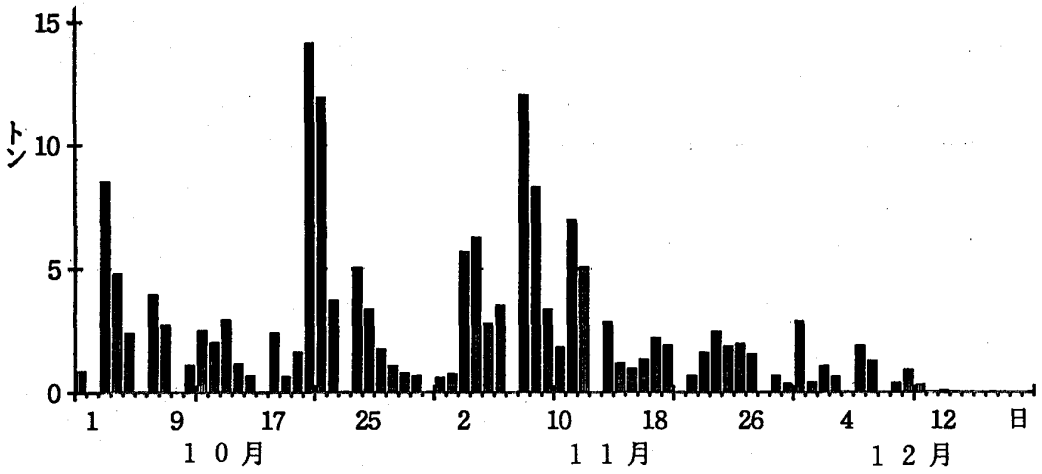


図5 1隻1晩当たりのスルメイカ漁獲量
(1994年、羅臼、釣り)

付記・羅臼沿岸にはさまざまなイカ類が生息している。これまでに照会のあった三例は次のように同定した。

(例1) 一九九一年七月に羅臼漁協から送られてきたのはスルメイカ。

(例2) 一九九四年十月に羅臼町の川上昭一氏が提供してくれたのはシンドウイカ。

(例3) 一九九五年二月に羅臼漁協から提供されたのはホタルイカ。

雑海藻駆除によるコンブ漁場の再生技術

阿部 英治

はじめに

釧路・根室地方はナガコンブなどの優良コンブの生産地として知られ、全道のコンブの約五割を生産しています。

本地域では流水の接岸がコンブの資源量維持に重要な役割を果たしてきました。ところが近年は流水接岸がなく、コンブの生産性が著しく低下しています。

これまでは流水が漁場を占有する雑海藻の除去をしていましたが、それに代わって雑海藻の除去を人為的におこない、コンブの生産性の回復を図ろうと、農業的な発想で考案されたのが「雑海藻駆除技術」です。

釧路水試ではこの雑海藻駆除技術に関連して平成四年から平成六年までの三カ年にわたり民間との共同研究事業として、歯舞漁業協同組合と共同で「雑海藻駆除によるコンブ漁場の活性化試験」をおこない、雑海藻駆除の効果的な方法に関する各種知見を明らかにしました。

雑海藻駆除によるコンブ漁場の回復とは

図1に「なぜ雑海藻駆除がコンブ漁場の回復につながるのか」その概要を示しました。ナガコンブ漁場の多くはこれまで流水接岸によって、漁場本来の自然な植生が破壊され、その跡地にコンブの優占する群落は形成され

ることにより、コンブの高い生産性を維持してきたと思われます。そのため大規模な流水接岸がなくなつた近年は、漁場が持つ環境条件に最も適した種類の海藻からなる安定群落となりつつあり、その結果大型褐藻類や紅藻類を中心とする雑海藻群落が発達し、その影響でコンブ群落が衰退したと考えられます。すなわち近年コンブ漁場が荒廃した主な原因は雑海藻の繁茂であるといえます。したがって、流水が接岸することによって起きていた海産植物の剝離現象を人為的に再現することによりコンブの生産性の回復が期待できます。

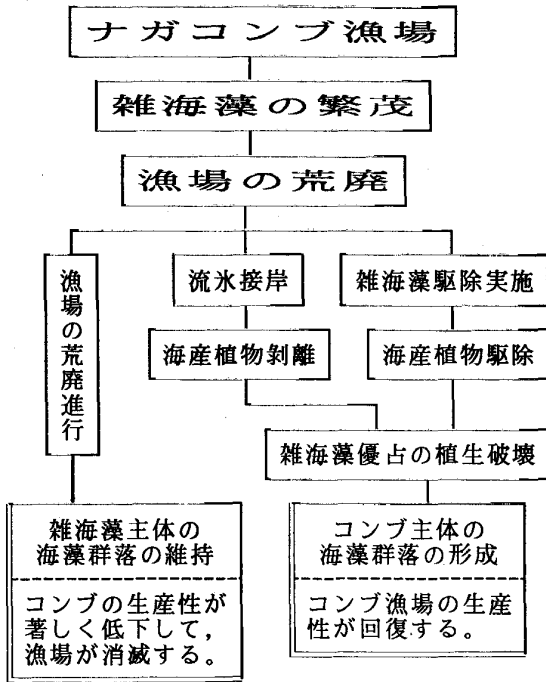


図1 雑海藻駆除の概念

コンブの群落形成を阻止する雑海藻は

コンブの群落形成を妨げる雑海藻の種類は漁場ごとに変わります。共同研究では主たる雑海藻として大型褐藻類のホンダワラ地区とスジメ・アイヌワカメ地区、紅藻類のカタワベニヒバ・クシベニヒバ地区および海産顕花植物のスガモ地区の計四地区を確認しました(写真1)。

雑海藻駆除に用いる道具の種類は

図2に現在雑海藻駆除用に開発または応用されている機械式および自営型駆除装置の主なものを示しました(図示したほかにもいろいろなものがあります)。現状の雑海藻駆除事業では、現地の諸条件に合わせて色々な駆除具が用いられています。しかし、将来的には雑海藻の再駆除の実施など、コンブの生産性を恒久的に維持するため、漁業者自ら実施可能である自営型駆除方式を積極的に取り入れるのが最善の方法であると考えます。

雑海藻駆除の要点

一、雑海藻の駆除適期

雑海藻駆除はいつ頃おこなうのが効果的かということに関し、共同研究ではコンブ類の発生時期が冬期間であるのに対し、雑海藻の発生時期が夏・秋と早期であることに着目した駆除開始適期と、コンブの最大の着生効果



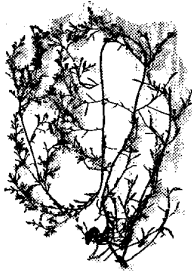
スガモ
〔海産顕花植物〕



クシベニヒバ
〔紅藻類〕



カタワベニヒバ
〔紅藻類〕



ウガノモク
〔褐藻類〕



アイヌワカメ
〔褐藻類〕

写真1 主な雑海藻

が期待される遊走子の放出盛期に合わせた駆除終了適期を明らかにしました(図3参照)。これをナガコンブに適用した場合の駆除適期は一月～翌年の一月で、この期間に雑海藻の駆除作業をおこなうことにより、最大限の効果が得られることが判明しています。

二、雑海藻の除去率

雑海藻駆除後のコンブの着生効果は、雑海藻の除去率が高いほど良好であることが判明しています。実際に雑海藻駆除事業を実施する際には、漁場の地形やコンブの生産力に合わせて除去率(駆除回数など)を調整するとよいでしょう。

三、大型雑海藻の再生防止

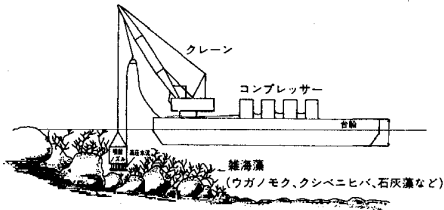
海藻類にはその体の一部が失われても成長を続ける能力があり、このことは雑海藻駆除後の効果の持続性におおいに関係します。図4にホンダワラ類とアイヌワカメの体を切断後の再生能力に関する試験結果を示しました。ホンダワラ類では付着器、アイヌワカメでは胞子葉が駆除後残ると再生し、再繁茂する可能性があります。したがって、特に大型褐藻類が多く繁茂している場所では、それらをできるだけ完全に海底から剝離するのが最善であると思われます。

四、漁場に繁茂する雑海藻の種組成に合わせた駆除の実施

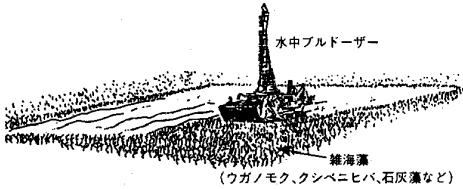
前述したとおり、共同研究ではコンブの群

< 機械式駆除 >

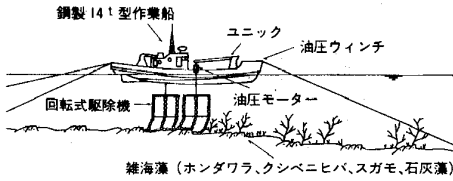
ウォータージェットカッター工法による雑藻駆除



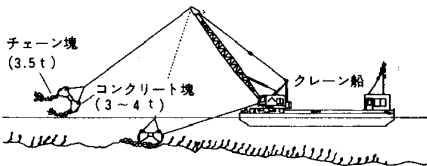
水中ブルドーザーによる雑藻駆除



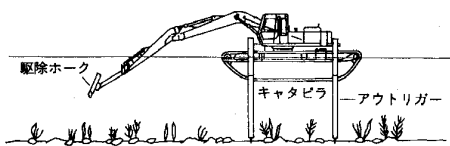
SKフープ型回転式駆除機による雑藻駆除



流水システムによる雑藻駆除

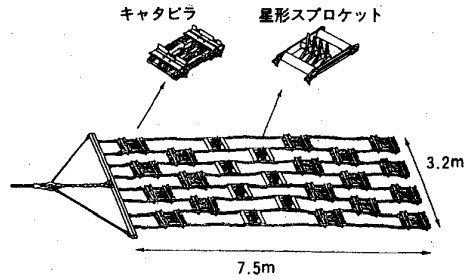


雑海藻磯焼駆除機による雑藻駆除

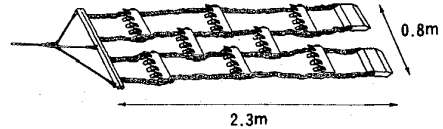


< 自営型駆除 >

ボトムスクレーパー

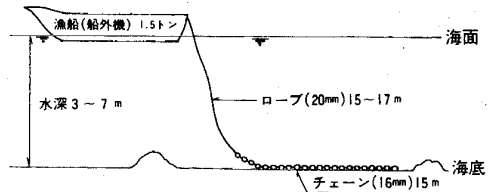


大型洗耕機構造図

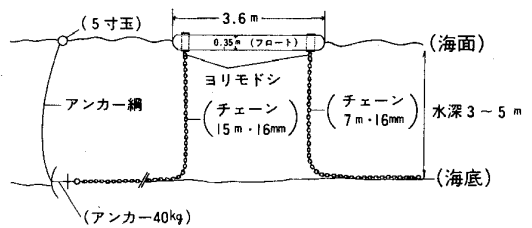


小型洗耕機構造図

チェーン曳き



チェーン振り



(浜中町、厚岸漁業協同組合および駆除機メーカー資料より引用)

図2 雑海藻駆除装置

種 類	雑海藻駆除適期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【褐藻類】												
ナガコンブ				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
ガツガラコンブ								◎	◎	◎	◎	
ネコアシコンブ								◎	◎	◎	◎	
トロロコンブ							◎		◎			
ゴハイコンブ	◎	◎	◎						◎	◎	◎	◎
スジメ			◎	◎	◎	◎	◎					
アイヌワカメ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
ウガノモク			◎	◎	◎	◎						
				(放卵期)								
【紅藻類】												
ピリヒバ			④	④	④	④	④	④	④			
カレキグサ	○	○								④	④	④
エソツノマタ	④	④	④	④	④	④	○	④	④			
アカバギンナンソウ	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	④	
カタワベニヒバ			④		○	④	④			④		
クシベニヒバ		④	④	④	④	④	④	④	④	○		
ハケサキ				○	○	④	○					
ノコギリヒバ												
オオノコギリヒバ	④	④	④	④	○					④	④	④
【海産顕花植物】												
スガモ												

◎：成熟体，④：四分孢子体，○：果孢子体
 一：遊走子放出期，二：成熟期，三：開花期

図3 主なコンブ類と雑海藻の成熟期



図4 大型褐藻類の切除再生試験

落形成を妨げる雑海藻群落として、ホンダワラ地区、スジメ、アイヌワカメ地区、カタワベニヒバ・クシベニヒバ地区およびスガモ地区が確認されています。さらには近年のナガコンブ漁場の荒廃にともないガツガラコンブ(アツバコンブ)、ネコアシコンブなどの低価値コンブ類の分布域の拡大傾向もみられません。したがって、今後は漁場に繁茂する雑海藻の種組成に合わせた駆除方法・時期ならびに駆除後の漁場管理を考えて実施する必要があります。

おわりに

雑海藻駆除技術は実施当初よりコンブ漁場の回復に大きな成果をあげています。しかし、現在のように大規模におこなう雑海藻駆除事業の歴史はまだ数年と浅く、雑海藻駆除後の植生制御方法や雑海藻の種組成に合わせた駆除方法および雑海藻を駆除した漁場の計画的な利用と管理方法など、さらに解決しなければならぬ問題点が多々あります。今後はそれら残された問題点についても積極的に解決を図り、雑海藻駆除技術のさらなる高度化を成し遂げて、道東地域におけるコンブ資源の安定と増産の切り札としての技術普及を目指したいと考えています。

(あべ えいじ・資源増殖部)

シロサケ頭部の原料特性について

利用部 成田 正直
船岡 輝幸

シロサケ頭部は、一部、兜煮(かぶとに)水頭(ひず)なます、鍋物材料などに利用されますが、その大部分は加工残滓(さんさい)としてフィッシュミールの製造に向けられています。加工残滓として排出されるシロサケ頭部は約三万トンにのぼると推定され、これだけの量のシロサケ頭部が加工残滓としてあ

つかわれているのはもったいない話です。そこで、釧路水試ではシロサケ頭部を加工原料として有効に利用するための試験研究を行っています。原料を有効に利用するためには、まず、その原料の成分的特徴を調べる必要があります。ここでは、釧路水試が最近行ったシロサケ頭部有効利用試験の中から、シロサ

ケ頭部の原料特性調査の結果を紹介したいと思います。

まず、分析試料として次のシロサケを入手しました。

索餌群(トキサケ、根室産、流し網、平成四年五月下旬漁獲)

前期群(Aブナ、釧路産、定置網、同年九月月上旬漁獲)

後期群(Cブナ、道内産、定置網、同年一〇月下旬漁獲)

これらの頭部を、口を境に上部と下部に分け、便宜的に上顎部および下顎部としました。上顎部からは、表面の皮をはがし表皮部とするとともに、眼球および眼球を包む脂肪層を取り出し、眼組織部としました。また、眼を境に、一般に氷頭といわれている半透明の軟骨と、その下に位置する硬い骨を分け、それぞれ軟骨部、頬骨部としました。軟骨および頬骨が混じり合っている部分や、顎についている筋肉はその他の部位として除去しました。これら上顎部から採取した四部位について(図1)、一試料区分から五個体以上を用いて成分分析を行いました。なお、主として歯や硬骨からなる下顎部は、今回は分析に供しませんでした。

表1に各部位の歩留りを示しました。セミドレスに対する頭部(カマ除去)歩留りは索餌群で約八%、前期群、後期群とともに一一

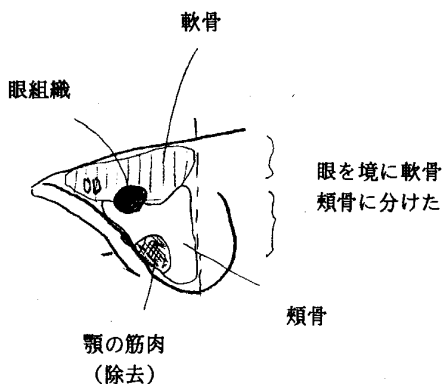
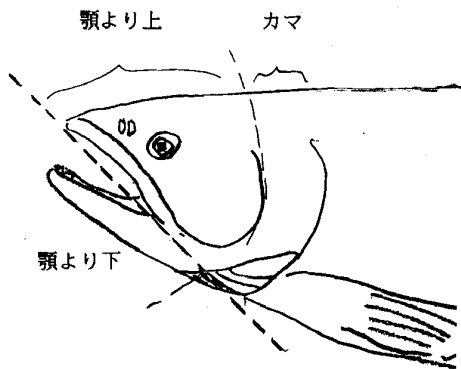


図1 シロサケ頭部の分析部位

表1 シロサケ頭部における各部位の歩留り(%)

部 位	索餌期	前期群	後期群
セミドレス	100.0	100.0	100.0
頭部(カマ除去)	7.9	11.0	11.4
頭部(カマ除去)			
上顎部	100.0	100.0	100.0
軟 骨	17.5	12.9	16.0
頰 骨	10.3	19.7	17.4
表 皮	15.4	17.8	14.9
眼組織	8.7	8.4	8.3
その他	11.2	16.9	17.4
合 計	63.1	75.6	78.0
下顎部	36.9	24.4	22.0

表2 シロサケ頭部の一般成分(%)

時期別	部 位	水 分	全脂質	粗タンパク質	灰 分
索餌期	軟 骨	57.1	29.4	8.0	4.2
	頰 骨	51.0	31.1	12.3	5.5
	表 皮	51.4	33.8	13.2	1.7
	眼組織	69.3	18.3	10.7	1.3
前期群	軟 骨	73.5	16.0	5.6	3.9
	頰 骨	57.1	26.5	10.7	6.9
	表 皮	62.8	23.0	12.5	2.9
	眼組織	73.5	13.8	11.3	1.1
後期群	軟 骨	80.9	8.4	6.8	3.0
	頰 骨	61.9	16.0	13.9	7.2
	表 皮	72.4	9.6	17.4	2.2
	眼組織	80.1	8.1	13.1	1.2

多でした。頭部に対する上顎部の歩留りは、索餌群の六三%に対し、前期群、後期群で七六〜七八%を占めました。下顎部は、索餌群で歩留りが高く、索餌期における下顎部の発達がかがえます。頭部に対する歩留りは、軟骨、頰骨、表皮でそれぞれ一三〜一七%、一〇〜二〇%、一五〜一八%、眼組織はどの区分でも八%台でした。

表2に一般成分を示しました。索餌群の水分会は軟骨で五七%、頰骨、表皮で五一%、眼組織はこれらより高く六九%を示しました。これらはブナ化とともに増加し、後期群では軟骨八一%、頰骨六二%、表皮七二%、眼組織八〇%を示しました。索餌群の全脂質は、軟骨、頰骨、表皮で三〇〜三四%、眼組織は一八%を示しました。これらは水分とは逆に、ブナ化とともに減少し、後期群では軟骨八%、頰骨一六%、表皮一〇%、眼組織八%を示しました。このことから、シロサケ頭部は肉部に比べ、脂質含量が高く、その脂質はブナ化とともに減少する傾向がみられました。ブナ化とともに脂質が減少するというのは、肉部

だけでなく頭部にも共通する現象のようです。粗タンパク質は索餌群、前期群、後期群をとおして軟骨六〜一八%、頰骨一〜一四%、表皮一三〜一七%、眼組織一〜一三%、また灰分は軟骨三〜四%、頰骨五〜七%、表皮二〜三%、眼組織約一%を示し、どちらも大きな変化はみられませんでした。

図2に全脂質脂肪酸組成を示しました。全脂質脂肪酸組成は、時期別、部位別にあまり大きな差はみられず、18:1、16:0などが多いようです。20:5(EPA)、エイコサペンタエン酸)、22:5(DHA、ドコサヘキサエン酸)はそれぞれ一〇%前後含まれていました。EPAは心筋梗塞、脳血栓の予防に、DHAは学習効果の向上、血圧、血糖値の低下に効果があることで、最近、注目されている脂肪酸です。DHAはマグロ頭部の眼に多く含まれ(全脂質脂肪酸の約三割)、実際にDHAの抽出原料としてマグロ頭部が使われています。シロサケ頭部をEPA、DHAなど生理活性を有する脂肪酸の抽出原料として考える場合、マグロに比べ頭部自体が小さいこと、部位差が小さいことなどから、頭部から特定の部位を取り出すよりも、頭部全体をそのまま用いるほうが有利と思われる。

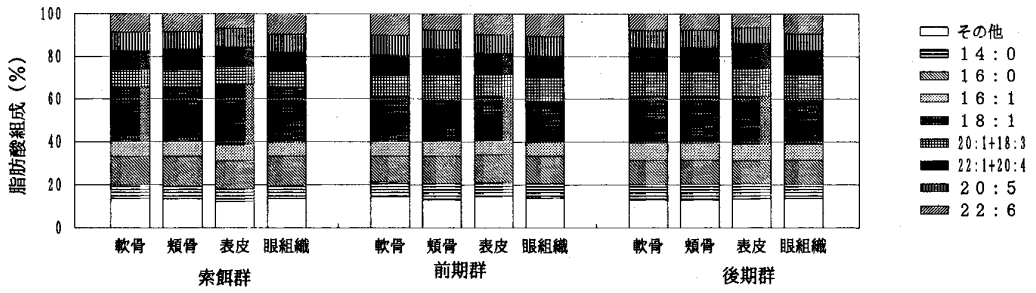


図2 シロサケ頭部の全脂質脂肪酸組成

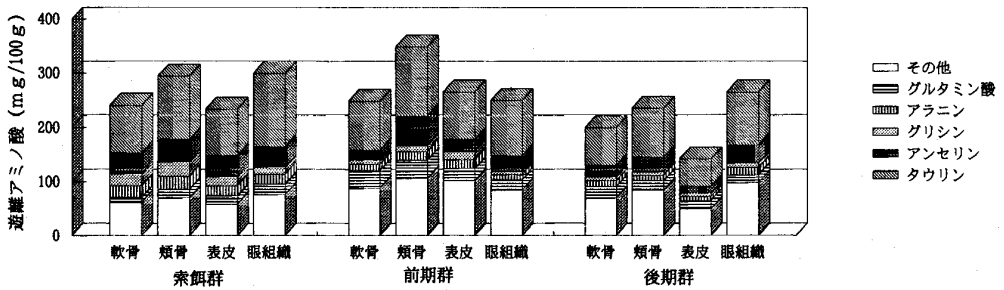


図3 シロサケ頭部の遊離アミノ酸組成

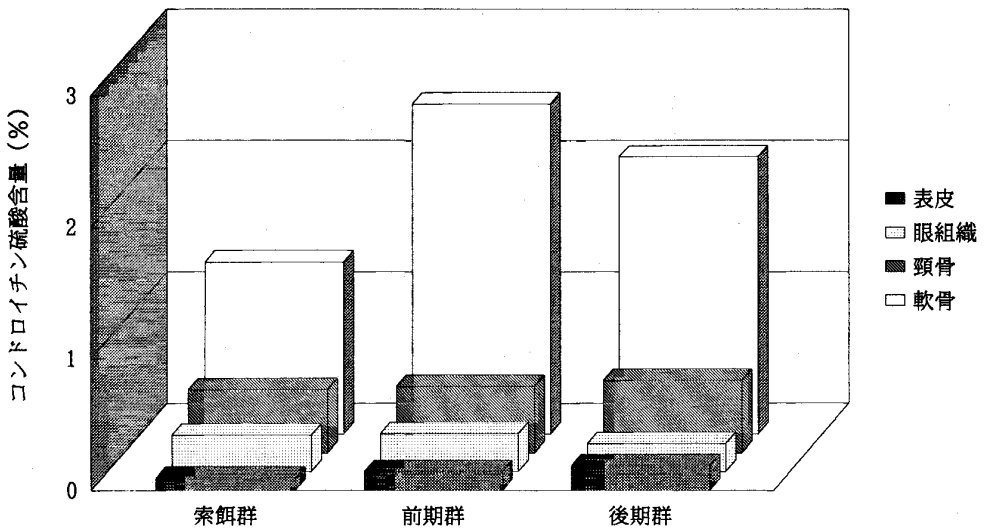


図4 シロサケ頭部のコンドロイチン硫酸含量

図3に遊離アミノ酸組成を示しました。遊離アミノ酸総量は一五〇〜三五〇mg/一〇〇gでした。各部位とも、索餌群に比べ後期群で若干減少するようです。組成はタウリンが多く全体の三〇%以上を占めました。他にアンセリン、グルタミン酸、グリシン、アラニンが多く、これら五種のアミノ酸で全体の七〇%以上を占めていました。タウリンは血圧を正常に保つ作用が知られており、健康ドリンクなどに添加されています。アンセリンはサケ・マス類の身に特徴的に多く含まれるアミノ酸です。グルタミン酸、グリシン、アラニンはいずれも味に関連するアミノ酸です。遊離アミノ酸組成も全脂質脂肪酸組成と同様に、時期別、部位別にあまり大きな違いはありませんでした。余談になりますが、石狩鍋にシロサケの頭を入れると味が濃厚になって鍋が大変おいしくなるとよくいわれますが、これは、頭部に含まれる脂質による「こく」の増加や、遊離アミノ酸による「うまみ」の向上が関係しているのかもしれない。

図4にコンドロイチン硫酸の含量を示しました。コンドロイチン硫酸含量は軟骨で一・三〜二・五%、頬骨〇・五%、眼組織〇・二%、〇・三%、表皮〇・一〜〇・二%と部位差がみられ、軟骨は、頬骨の三〜四倍、表皮の一〇倍以上の含量を示しました。コンドロイチン硫酸というあまり聞き慣れないこの物質

は糖の一種で、動物の軟骨に多く含まれていることが以前から知られています。もちろん私たち人間のからだにも含まれていて、老化とともに減少するようです。コンドロイチン硫酸は肌の保湿、老化防止、視力回復、カルシウムの吸収促進などに効果があるといわれており、釧路水試でもその生理活性に着目した利用法を検討しています。最近、クジラ軟骨のコンドロイチン硫酸が肥満防止に効果があること、キンコのコンドロイチン硫酸に癌細胞の増殖を阻止する働きがあることなどが報告され、水産物由来のコンドロイチン硫酸の生理活性が注目されています。なお、キンコはナマコ的一种で、以前、本誌六二号でキンコの加工の歴史について紹介しています。

以上、シロサケ頭部の原料特性を簡単に紹介しました。頭部は肉部とやや異なった成分的特徴を持っているようです。今後、釧路水試ではこれらのデータをもとに頭部の有効利用方法について皆様のご指導、ご協力を得ながら試験研究を進めていきたいと思っております。

(なりた まきなお・ふなおか てるゆき

利用部)

寄ッ昆布

標識の付いたケガニ(雄)を
見つけてください。

平成七年四月一六日から五月九日にかけて「資源管理型漁業推進総合対策事業」の中で実施した「ケガニ生存率調査」において、漁獲試験の中から標識放流を実施しました。調査を行った釧路東部海域では、ケガニの分布移動に関する知見が少なく、今回の標識放流調査からは、ケガニの生活史・成長段階に応じた移動に関する知見が得られるものと期待しています。

標識放流を行った海域は次のとおりです。

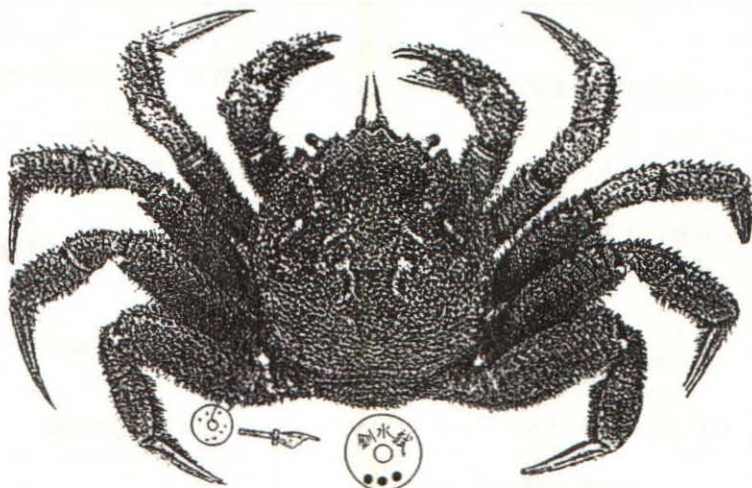
放流月日：平成七年四月二四日

放流海域：釧路支庁管内 昆布森沖

(水深：七〇m)

放流尾数：二八一個体

☆今回使用した標識はアトキンス型(黄色)です。この標識はケガニの脱皮の際に脱落すると考えられますが、甲長八〇mm以上の雄のケガニでは脱皮が二年に一回であるので、今回の標識放流調査の中で、標識の付けられた甲長八〇mm以上の雄の軟甲ガニでは、今後二年間はこの標識が脱落することがないと考えられ、長期間にわたる追跡調査が期待されます。



標識の付いたケガニを再捕された方は、釧路水産試験場、又は水産技術普及指導所に

- | |
|-----------------------|
| 1. 漁獲月日 |
| 2. 漁獲場所 (緯度・経度又はデッカ値) |
| 3. 水深 (m) |
| 4. 大きさ (甲長: mm) |
| 5. 標識番号 |

をお知らせください。記念品を差し上げます。

連絡先

- ・ 北海道立釧路水産試験場
〒085
釧路市浜町2-6
Tel. 0154-23-6221
Fax. 0154-23-6225
- ・ 釧路西部地区水産技術普及指導所
〒085
釧路市浦見町2丁目
釧路支庁水産課内
Tel. 0154-41-1131
- ・ 釧路東部地区水産技術普及指導所
〒088-11厚岸郡厚岸町字若竹町2丁目70-9
Tel. 0153-52-2003

平成六年度水産試験研究プラザ
開催結果について

平成六年度の水産試験研究プラザは、二月二三日に大樹町で開催されたミニプラザをもって終了しましたが、これまでに一〇回、延べ五〇七人の参加を得て各地区で盛会のうちに終わりました。

このうち、一二月八日釧路市で「道東の沿岸漁業を考える」をテーマに掲げて地域プラザを開催しましたが、その中では研究者からテーマに関連した話題提供を行うとともに、一方、浜の関係者からは話題提供に関係する現地での取り組み状況などについて報告して頂きながら、参加者全員でテーマについて語り合う場としてプラザを開催した事が非常に特徴的であり、また有意義なものとなったことと確信しております。

平成七年度もミニプラザを主体として各地で開催することとしておりますが、プラザ開催に先立ち各支庁単位でのプラザ連絡会議を開催して、地域関係者の方々からの御意見等を聞かせて頂きながら、より意義のあるプラザに行きたいと考えておりますので、これからも関係各位の御理解と御協力をお願いします。

平成六年度の水産試験研究プラザ開催状況

開催月日	テ ー マ 等	開 催 場 所	参加人数
5月24日	・活性化支援事業等成果報告について	釧路市 市水産加工振興センター	47
7月29日	・今年のイカ、スケソの漁獲予想はこうだ	羅臼町 羅臼商工会	37
8月27日	・移植によるホッキガイ貝殻の黒色化試験結果について	根室市 根室湾中部漁協	35
9月1日	・スルメイカの資源・漁獲について ・根室海峡のスケトウダラ資源について	羅臼町 羅臼漁協	64
10月17日	・道東海域におけるシシャモについて	えりも町 庶野漁協	14
12月8日	・シシャモの資源管理について ・海藻類の増殖とその利用について ・カレイ類の資源増殖の展望	釧路市 くしろ水産センター	130
2月20日	・移植によるホッキガイ黒色化試験結果報告	根室市 根室商工会館	46
2月21日	・増殖場の資源管理 ・厚岸湖におけるアサリ発生状況と成長について	厚岸町 厚岸漁協	60
2月23日	・新しいホッキガイ資源管理の試み	豊頃町 大津漁協	41
2月23日	・新しいホッキガイ資源管理の試み	大樹町 大樹漁協	33
合 計	10回		延べ 507 人

人事異動

1. 転入

* 四月一日付

釧路水試主任水産業専門技術員

(後志南部地区水産技術普及指導所主査)

森 正美

釧路水試北辰丸三等航海士

(中央水試おやしお丸航海主任)

寶 福 功 一

釧路水試北辰丸工作長

(函館水試金星丸工作長)

牧 野 稔

釧路水試北辰丸船員

(稚内水試北洋丸船員)

宮 崎 正 人

2. 転出

* 四月一日付

根室北部地区水産技術普及指導所長

(釧路水試主任水産業専門技術員)

福 井 滋

日高支庁経済部水産課漁政係

(釧路水試利用部研究職員)

大 石 岩 樹

3. 昇格

* 四月一日付

釧路水試北辰丸航海長

(釧路水試北辰丸一等航海士)

山 崎 清

釧路水試北辰丸一等航海士

(釧路水試北辰丸二等航海士)

塚 田 重

釧路水試北辰丸二等航海士

(釧路水試北辰丸三等航海士)

中 村 勝 己

釧路水試北辰丸甲板長

(釧路水試北辰丸操舵長)

会 津 松 夫

釧路水試北辰丸操舵長

(釧路水試北辰丸工作長)

佐 京 孝 一

4. 退職

* 三月三十一日付

釧路水試加工部研究職員

河 野 陽 子

釧路水試北辰丸甲板長

大 久 保 照 明

* 四月二〇日付

釧路水試北辰丸調査員

小 坂 義 重

表紙の写真

平成五年三月に釧路沖水深二百メートルのところで底刺網で漁獲されたものです。

釧路市漁協から釧路水試に届けられました。釧路水試で「もしや」と思い、北海道大学水産学部の矢部衛博士に送って詳しく調べてもらったところ、日本では初記録のナガメヌケとわかりました。ナガメヌケはフカサゴ科の魚でクロメヌケやヤナギメバル、アカガヤ、ガヤモドキと似た魚です。ブリテイッシュユクロンビアからアラスカ湾を経てベーリング海に分布していることが知られていましたが、今回のことで日本近海にも分布することが明らかになりました。

同じような日本初記録の例として平成二年に釧路水試に届けられたソコマダマウオがありました(釧路水試だより六九号参照)。

これからも日本で見つかっていない魚が漁獲されることがあると思いますので、その時はお手数でも釧路水試までご連絡くださるようお願いいたします。
(本間 隆之)

釧路水試だより 第72号

発行年月日 平成七年五月

編集委員 橋本・小山・山口・中川・大堀

北川

発行人 村上 幸一

発行所 釧路市浜町一番六号

北海道立釧路水産試験場

電話 〇一五四―三三六三二

FAX 〇一五四―三三六三三

印刷所 釧路総合印刷株式会社